

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	6 教育内容・方法・成果（研究科）《全学的な視点》	
中項目	6.4 成果	
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）	
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。	
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価） 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学位審査の流れを学生に明示し、透明性・客観性を確保する。	→学位論文の取得要件の明示(論文数、筆頭著書の有無等)、リポジトリ等での学位論文の公開、学外審査委員の登用	C
2. 学生に研究進捗状況を自己管理させる。	→研究の進捗状況に応じた中間発表の実施	B
3. 長期的な視点で大学院満期退学、修了後の進路把握を行う。	→進路状況調査	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

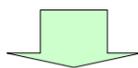
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.4.1	(方針) 大学院においても学生の学習成果を測定する必要が出てきていることに鑑み、評価指標が必要となってきた。また、学位授与についてはその授与における客観性を担保する必要がある。 (現状説明) 大学院における学習成果測定の評価指標の開発には至っていない。学位授与については、複数の審査体制をとっており、客観性は担保されている。
☆ 小項目6.4.2	(現状説明) 各研究科においては、学位授与においてそのプロセスモデルを定め、適切に学位審査を進めていると言える。研究科内の手続きに加え、進路状況をきちんと把握することにより、学位授与との関係性を整理する必要があり、現在キャリアセンターにおいて進路状況を調査している。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
☆ その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】
 ○6.4.2について、とくに博士後期課程では学位授与率向上に向けた重点的な取り組みが望まれます。

【学内委員】
 ○各研究科、専攻ごとの学位授与数のデータは大学基礎データにありますが、学位授与率のデータはありません。授与率を調査し課程制の大学院に相応しい内容となっているかの考察が期待されます。
 ○小項目6.4.1の現状説明の(方針)は、(現状説明)で説明してください。
 ○小項目6.4.1の現状説明における「学位授与」については、小項目6.4.2で説明してください。
 ○要素の「学生の自己評価・・・」が、小項目6.4.1及び6.4.2の両方に記載されています。誤りです。小項目6.4.1.の要素です。申し訳ありません。従って、現状説明の整理をお願いします。
 ○大学院における学習成果の測定や評価指標の必要性があげられています。改善すべき事項へ記載が必要ではないでしょうか。
 ○学位授与手続きについて簡単に説明をお願いします。
 ○掲げられた目標について、現状説明として説明をお願いします。
 ○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78~)に留意してください。ここで示されていることについて現状説明していくことも基準の自己チェックにもなり有効です。基準に達していない場合は、必ず記述してください。
 ○学位審査の仕組みは必ずしも周知のこととはいえません。したがって、それを周知・徹底させることによって透明性を高めることは必要です。客観性は保たれています。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ (現状説明) 6.4.1における記述「学位授与については、複数の審査体制をとっており、客観性は担保されている。」を削除する。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.4.0.S1	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.4.0.S2	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.4.0.S3	各学部における学生の進路状況
6.4.0.S4	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.4.0.S5	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.4.0.S6	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.4.0.S7	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.4.0.S8	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.4.0.S9	修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S10	KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S11	3年卒業の適用者数
6.4.0.S12	ジョイント・ディグリーの授与者数
6.4.0.S13	標準修業年限未満の修了者の数
6.4.0.S14	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

<個別的な指標>

--	--